

立命館大学交友会の東北応援ツアーへの参加は、2013年の宮城県コースへの参加に続き、今回が二度目になります。

今回のツアーで、津波の恐ろしさを強く感じたのは、2014年4月に運転を再開した三陸鉄道釜石駅から盛駅までの震災学習列車です。車内放送で震災当時の状況の説明をうけながら、時に列車を止めてホームに降り立ち、津波の様子を細かく聞くことで想像力が刺激され、当時の状況というものをこころに刻むことができました。

三陸鉄道南リアス線の列車の車窓から眺めた風景は、この地域の本来の自然の美しさを実感できるとともに、震災から4年半が経過したもののなかなか復興が進んでいないことを改めて強く認識する貴重な機会になります。

また、岩手県校友の方々とのおたのしみな交流を通して、菊池会長が被災した校友を定期的に訪問されていることや、皆さんの復興に向けてのご苦労話を伺うにつけ、ひとくちに復興と言ってもさまざまな意見や考え方があり、簡単には進まないものであることもよく解りました。また、バス車中や見学地での校友の方々とのおたのしみや、勉強会、懇親会の場を通じて、震災を機に多くつかわれるようになった「絆」という言葉を、改めて思いおこす機会となりました。

前回の宮城県コースへの参加の翌年、私は家族を連れてもう一度同じ場所を車で回りました。

ツアー初日のバスの中で、岩手県は四国4県とほぼ同じ面積という話を伺い、観光地として回るには改めて十分な時間が必要であると思いました。来年夏は、家族と一緒にもう一度岩手県を訪れるつもりです。

何かしらの機会がなければ、個人ではなかなか東北地方を訪問するという動きに繋がらないのではないかと思います。だからこそ一度も被災地を訪れたことのない方には、来年度のツアーに参加をされることをお勧めします。

今回のツアーに参加をし、私たちにできる一番大切なことは忘れないことであると改めて感じ、参加をした者として、（自分も、他の方も）少しでも多く訪れる機会に繋がればと思う次第です。

震災からはさらに時間が経過したものの、現地を訪れなければ解らないこと、感じられないことが沢山あることを改めて実感し、今後も機会があれば是非この企画に参加をしたいと思います。

終わりに、貴重な機会を設けて頂いた岩手県校友会の皆様、校友会事務局の皆様へ感謝を申し上げます。